



【発行所】
 独立行政法人国立病院機構 岩手病院
 岩手県一関市山目字泥田山下48
 Tel : 0191-25-2221
 Fax : 0191-25-2157
<https://iwate.hosp.go.jp/>
 発行責任者 豎山 真規

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行

国内では2月下旬からコロナウイルス感染症が流行し始め、当院だけではなく全国の医療機関においても面会禁止の措置がとられていました。緊急事態宣言が5月25日に解除され、医療機関においても徐々に面会制限が緩和されてきています。幸い岩手県では依然として感染者ゼロが続いていますが、い

つ感染が流行するか予断を許さない状況です。患者さん、ご家族をはじめとする皆様のご協力に感謝いたしますと共に、職員一同あらためて気持ちを引き締めております。

当院における各病棟の取組を紹介します。

1 病棟

新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出や面会の制限が続いている状況下ではありますが、少しでもいつもと変わらぬ日常を、と患者さんに外の景色を届けています。患者さん、ご家族の皆様のご理解とご協力にスタッフ一同感謝いたしております。



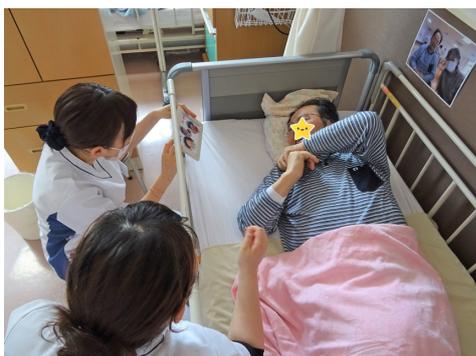
あすなろ5病棟

面会禁止が続き、患者さんだけではなくご家族も寂しさや不安を感じているだろうと職員全員が感じていました。そんな時、ご家族の不安を少しでも軽減できるよう手紙を郵送したいとスタッフが提案してくれました。保育士や指導員の協力を得て、受け持ち看護師が患者さんの写真を選び手紙を作成し、ご家族へ郵送しました。ご家族から、「手紙が届きました。安心しました」とお礼のお電話を頂き、病棟全体が温かい気持ちでいっぱいになりました。

あすなろ4病棟・6病棟でも写真やお手紙を送り近況をお知らせしてしていました。

2 病棟

面会禁止が決まり、患者さんやそのご家族は心細く、寂しく感じていらっしゃると思います。機会がある都度日々の変化をご家族に伝え、少しでも両者の気持ちに沿えるように配慮しました。また、ご希望のあるご家族には写真や動画等を準備してもらい見てもらっていました。「パッ」と笑顔になる患者さんを見て絆の強さを改めて感じる期間となっています。



ご寄贈のお礼

この度マスクなどの寄贈いただき、誠にありがとうございました。

- 石毛 (個人) 様 (手作りマスク)
- (株)ジェイマックシステム 様(サージカルマスク)
- (株)あさ開 様 (消毒用アルコール)
- 大沼義肢製作所 様 (フェイスシールド)
- 一関医師会 様 (サージカルマスク)
- 日本赤十字社 様 (布製マスク)



院内カンファレンス 検体採取について

臨床検査技師 遠藤 昂駿

最近は少し落ち着いてきた印象ですが、一時期はテレビをつけると常に新型コロナウイルスのPCR検査などの感度・特異度や偽陽性・偽陰性、検査対象者について議論されており、これまで無かったほど臨床検査にスポットライトが当たっていると感じています。

そのような中で5月14日の院内カンファレンスでは微生物検査における検体採取をテーマにお話し



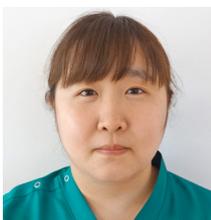
しました。臨床検査の信頼性と検体採取はとても強い関わりがあり、いい加減な検体採取を行えば感度は下がり偽陰性率は上がります。つまり検体採取が不適当な場合は正しい結果が得られないばかりか、誤った結果により患者さんやその周りの方にも被害が及びかねません。

大変な日々ですが、コロナ禍を検体採取や感染対策を見直すきっかけとして、禍を転じて福と為すための一助となる勉強会となれば幸いです。

院内カンファレンス 腰痛予防について

理学療法士 小山内 彩乃

6月11日の院内カンファレンスにて腰痛予防についてお話ししました。日本人の約8割が経験するといわれている腰痛ですが、原因がはっきりしていないことが多いです。また、長時間同じ姿勢でいることが多い事務職や前屈みや中腰での仕事が多い医療・介護従事者など病院で働く人の



多くが腰痛になりやすいとされています。今回の院内カンファレンスでは生活動作の注意点や工夫点、腰痛予防のためのストレッチ・筋力トレーニングについて実技をしながら行わせていただきました。参加することができなかった職員の中にも、腰痛を抱えている方が多いと思いますが、参加された方からストレッチや筋力トレーニングの方法などを聞いていただき、皆さんで腰痛予防に取り組んでいただければと思います。

永年勤続表彰を受賞して

薬剤科長 佐々木 聖一

この度は永年勤続表彰をいただきましたこと、心から皆様に感謝申し上げます。

振り返ればこれまで勤続できたことは、職場内外問わず多くの方々のご支援、ご指導、ご鞭撻の賜物と感じています。

管理課長から「永年勤続表彰するけど都合悪い日教えて」と話された時「30年？そんなになるのか、成し得た事はあるだろうか？」と思いました。また「光陰矢のごとし」とはこのことかと感慨深く感じています。

薬剤師として昭和63年に国立仙台病院（現仙台医療センター）に入局してから諸先輩方の指導・教育を受けて道川病院（現秋田病院）、青森病院（民間譲渡）、福島病院、宮城病院、仙台医療センター、盛岡病院、仙台西多賀病院、米沢病院、岩手病院と縦横無尽に異動して、その土地の風土や人柄に触れ体感できたことはとても貴重で尊いものでありました。

今後の残された時間を、病院はもとより患者さん、職員、地域のために、非力ではありますがこれまでの経験を糧とし、より良い医療が提供できるよう日々励んで参ります。



永年勤続表彰

30年受賞者

薬剤科長 佐々木 聖一
副看護部長 千葉 洋子
副看護師長 千田 初枝

20年受賞者

院長 千田 圭二
看護師長 齋藤 邦彦
主任保育士 齋藤 久美

新採用者看護技術研修

教育担当看護師長 菅原 美花

令和2年度も、今春学校を卒業したフレッシュな17名が岩手病院の看護部の仲間となり、4月6日から8日までの3日間新採用者看護技術研修が開催されました。

この研修は安全・安楽な看護を提供するための基本的な技術習得を目的に、当院の頼もしい副看護師長さん達を中心になって企画・運営している研修です。採血、吸引、食事介助などをモデル人形を使用したりお互いが患者役となって研修をしました。研修生は初めて経験する技術も多く、最初は緊張している様子でしたが、副看護師長をはじめとした先輩方にマンツーマンで優しく丁寧に教えてもらい、仲間と確認し合いながら真剣な表情で研修に臨んでいました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために採用前説明会を中止しました。入職後に白衣を配布したので、技術研修から新しい白衣に身を包むことに



なり、研修を重ねるごとに岩手病院の看護師としての自覚と責任を感じているようでした。

岩手病院看護部の新採用者は1年間名札に若葉マークを貼付しています。若葉マークの貼っている看護職員を見かけたら優しく声をかけていただきたいと思います。

研修を終えるといよいよ配属部署での勤務になり、実践の現場で看護職員として歩みだしていきます。研修で学んだことを基礎としながら実践経験と学習を積み重ね、患者・家族の思いに寄り添い共に考え、優しさのある、安全で質の高い看護を提供できる人材に成長することを期待しています。今後の集合研修でも一緒に学んで行きたいと思っています。



着任のご挨拶

看護部長 黒澤 みゆき

4月1日付けで弘前病院から昇任で参りました黒澤みゆきと申します。どうぞよろしくお願いたします。

私は岩手県久慈市の出身で、岩手県立大槌病院に採用となり、そこで6年間お世話になりました。その後子育てのため退職し、平成5年に国立仙台病院（現在の仙台医療センター）に再就職し、その後東北各地を転勤しながら、今年度故郷である岩手県に異動となりました。皆様に愛される病院となれるよう精一杯努力して参りたいと考えております。

現在新型コロナウイルス感染症対策により、面会制限等ご不便をおかけしておりますが、ご協力頂き心から感謝致します。世の中の先行きが見えないことに対する不安と、経済への打撃とにより笑顔を失いかけている現状ですが、患者さんの笑顔に励まされ日々元気を頂いております。今後、感染拡大の第2波が予測されており、長期戦を覚悟する必要がある



ります。ウイルスとの共存を想定した社会の中で、当院に入院されている患者さんの安全を守る感染予防対策の備えを進めていかなければなりません。過去の東日本大震災等、甚大なる災害を乗り越えてきた我々東北人魂を、もう一度集結してこの難局を乗り越えて行きたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症と最前線で闘う医療者の姿を見て心を打たれます。まだまだ未知のウイルスとの戦いの中で、患者さんを支える心温まる看護師達の姿に敬意を抱きます。当院でもこの春、新卒・既卒合わせて22名の新採用者を迎えました。患者さんによりそう気持ちを大切に作る看護師を育てて行きたいと考えています。私は新人時代（現在もですが…）そそっかしくて、多くの失敗をしてきました。しかし周囲の多くの人達に助けをもらいながら、現在こうして看護の仕事が続けることができている。自分を育ててくれた多くの人達に感謝をしながら、看護師としてスタートした後輩達を支えて行きたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願いたします。

診療体制 (令和2年7月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
脳神経内科	午前 (再来)	豎山	工藤 <small>※物忘れ外来、 頭痛など</small>	千田(圭)	千田(光)	今野
	午前 (新患)	千田(光) (第1、3) 今野 (第2、4)	阿部	豎山	小野	千田(圭) ほか
	午後	<small>※HAL外来</small> 今野 (第1、3、5週)				<small>※リウマチ科</small> 千葉(実) (最終金曜)
呼吸器内科		芦野	櫻井	芦野・森 <small>(禁煙外来)</small>	櫻井	芦野
内科					阿部	佐藤(良)
外科		平野 <small>予約者のみ</small>	平野 <small>予約者のみ</small>		平野	
小児科			田澤			<small>※重症心身障害</small> 大沼
リハビリテーション科		佐藤(智) <small>※ボトックス外来、 AGA外来など</small>			宮	
歯科		佐藤(敦)	佐藤(敦)	佐藤(敦)	佐藤(敦)	
その他	※予約に関するお問い合わせは14:00～15:00にお寄せ下さい。 ※専門外来は、すべて予約制です。 ※予防接種は、火・木9:00～11:00に完全予約で行います。			<small>※心療内科</small> 伊藤 <small>※消化器内科</small> 仙台医療センターから <small>※アレルギー科 (第2週)</small> 千葉(友)	<small>※皮膚科</small> 東北大学から	<small>※循環器内科</small> 渋谷 (第1、3週)

職場紹介 — 診療放射線科 —

当院診療放射線科のスタッフは放射線技師3名で医療画像に関する情報提供を行っています。

業務内容は単純X線撮影、CT撮影、MRI検査、病室でのポータブル撮影、X線TV装置による透視撮影、歯科撮影などがあります。MRI装置は



PHILIPS社製1.5テスラ「Multiva 1.5T」が稼動しています。

またCT・MRI大型医療機器の共同利用等も推進してお

り、地域医療に貢献できる医療画像を提供しています。その他、両磐地域内連携の画像データの送信など迅速な画像サービスを行っており、多面化する業務などにも細心の注意を払って安全・安心な検査を患者の皆様にご提供できるよう業務に励んでおります。

ご不明な点がございましたらお気軽にお声掛け下さい。

診療放射線科 撮影透視主任 岩崎 修

人事異動

- 【令和2年5月31日付】 辞職
佐藤 里奈 看護師
- 【令和2年6月30日付】 辞職
松岡 勝代 看護師



【編集後記】 新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るっています。この原稿を書いているのは6月初旬ですが、どろたやま通信7月号が発行されている頃、少しは落ち着いているでしょうか。幸い？岩手県では感染者が報告されていませんが、どこでウイルスが手招きをしているか分かりません。通信をご覧のみなさま、これからも今以上に3密回避を心がけましょう！

(S.H)